

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(H28.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

霧ヶ谷湿原での調査活動

【報告者】認定NPO法人 西中国山地自然史研究会 佐久間 智子

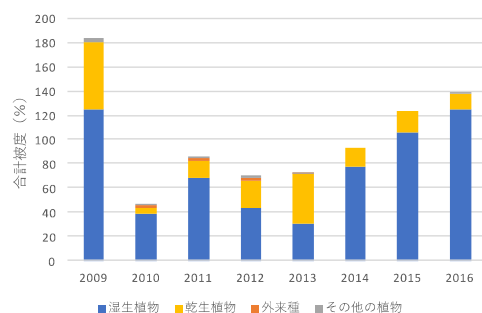
認定NPO法人西中国山地自然史研究会は、再生事業の効果を確認し、これからの保全活動に役立てるために、霧ヶ谷湿原内の木道沿いに定点を設置し、2009年から2016年まで、毎年、6月と9月に植生調査をおこなってきました。調査は植物専門の講師と参加者が一緒におこない、1m×1mの方形区に出現する植物の種類と被度・群度、高さを記録しました。現地調査の実感として、再生工事の直後は、出現する植物の種類やその割合に変化がありました。年数が経過すると、同じような種類が同じような割合で確認され、植生が安定してきたことが感じられました。

2009年から2016年までの9月の結果を比較したところ、湿った場所に生育する植物(湿生植物:エゾシロネ、アブラガヤ、イ、ミゾソバ、サワオトギリ、アキノウナギツカミ、ホソバノヨツバムグラ、ツボスミレなど)の割合が増加した地点と、乾いた場所に生育する植物(乾生植物:ヨモギ、ススキ、ミツバツチグリ、スイカズラ、キンエノコロ、ミヤコイバラなど)の割合が増加した地点があることがわかりました。また、再生工事後にフランスギクやアメリカセンダングサなどの外来種の割合が増加した地点もありましたが、その後、次第に減少しました。グラフと写真は、調査地点のうち、2地点を例として示しています。再生事業地全域においても同様の結果が考えられ、水が十分に供給されている場所では、湿生植物が生育するようになりましたが、そうではない場所では、乾生植物が生育し、その状態が保たれています。再生工事後8年が経過し、計画どおりに湿生植物が広く生育するようにはなっていません。今後も湿原の状態を確認しながら、状況に応じた適切な保全活動をおこなうことが大切です。

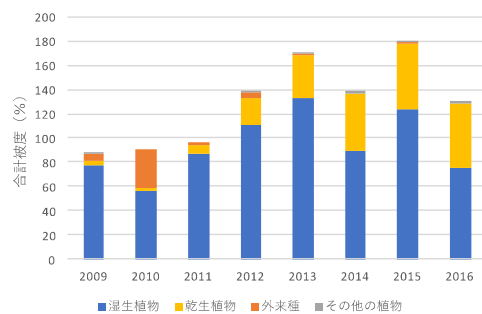


植生調査のようす(2016年9月17日)

湿生植物の割合が増加した地点



乾生植物の割合が増加した地点



湿生植物の割合が増加した地点
(2016年9月17日)



乾生植物の割合が増加した地点
(2016年9月17日)